

八戸市総合計画策定委員会 第3回専門部会「魅力づくり戦略部会」 議事概要

日 時：平成27年4月30日（木） 13：50～15：30

場 所：八戸グランドホテル2階 グランドホール

出席委員：5名

大谷委員（部会長）、大黒委員（副部会長）、河村委員、米内安芸委員、町田委員  
（欠席1名：米内正明委員）

事務局：

政策推進課（大久保主査・佐々木主事）、まちづくり文化推進室（三浦副参事、下村副参事、下斗米副参事）、スポーツ振興課（館合副参事）、屋内スケート場建設推進室（石上副室長）、是川縄文館（船場主査兼学芸員）、観光課（高館副参事）、社会教育課（小保内副参事）、道路建設課（西技師）、都市政策課（石橋副参事）

（株）ケー・シー・エス 東北支社 石田

次 第：

- 1 開会
- 2 部会長あいさつ
- 3 審議案件  
審議1. 第5章戦略プロジェクト（計画4次案）について
- 4 その他
- 5 閉会

審議案件に関する主な意見：

**戦略4 魅力づくり戦略**

**【戦略全体について】**

- ・特に意見なし。

**1. アート・スポーツプロジェクト**

**【プロジェクト全体や名称について】**

- ・アートを行政が推進するという事に違和感がある。行政がアートの評価や規制を行うのではなく、行政の役割としては、活動する人達を支援することではないか。
- ・その場合、プロジェクト名についても、「アート・スポーツ支援プロジェクト」とした方がよいのではないか。
- ・事務局の説明では、本プロジェクトでは、アーティストを育てるというよりは、アーティストと地域が一緒になって取り組むことで、アートを活用した地域活性化を進めたいということであった。そういう内容であれば、現在の名称で問題ない。

**【現状と課題について】**

- ・特に意見なし。

**【プロジェクト指標について】**

- ・特に意見なし。

### 【展開する施策について】

#### ■施策1：アートのまちづくりの推進

- ・アートを活用した地域活性化やまちづくりも大事だが、市民のアート活動を支援し受け入れる体制づくりも重要ではないか。
- ・例えば、売れないアーティストを支援することや、発表の場を提供することが必要だと思う。「はっち」がある程度その役割を担っているが、もう少し広げられるとよい。
- ・絵描きなどのアーティストはなかなか生計を立てていくことが困難である。行政だけでなく、財界人らがアーティストを支えることも必要だと思う。

#### ■施策2：地域スポーツの活性化

- ・八戸市民は子供の頃からスケートに親しんできた人が多い。中高年がもう一度スポーツに親しんでもらうために、例えば冬期にシルバーアスリートの集まり（シルバーカムバックプロジェクト）などを企画してはどうか。

#### ■施策3：氷都八戸の再生

- ・「氷都」を施策名として前面に出すことはよいと思う。他都市にはない八戸の特徴となる。
- ・施設の整備に加え、今後、大学と連携したスポーツ医学や科学スポーツを実践する人材・指導者の育成が必要である。

## 2. 八戸ツーリズムプロジェクト

### 【プロジェクト全体や名称について】

- ・特に意見なし。

### 【現状と課題について】

- ・三陸復興国立公園指定や三陸ジオパーク認定の話題が取り上げられているが、「みちのく潮風トレイル」の記載がないのはなぜか。

### 【プロジェクト指標について】

- ・特に意見なし。

### 【展開する施策について】

#### ■施策1：観光ブランドの強化

- ・八戸としての特徴があるとよい。近年注目されている健康面では、食も含めたヘルスツーリズムなどが考えられる。大学の人間健康との連携もできる。
- ・八戸の魅力は、えんぶり、雪、うまい魚がある「冬」ではないか。

## ■施策2：おもてなしの充実

- ・想定される事業には、ハードの施策が多く、ソフトの施策は少ない。受入体制やおもてなしのクオリティ向上なども大事である。
- ・ワンコインバスの運行期間は4月～11月であるが、朝市の開催期間は3月～12月なので、運行期間を延ばして合わせられないか。
- ・外国人旅行者については、多言語パンフレットだけでなく、トータルでインバウンドをどうするかが大事である。青森・弘前と比べると、八戸には外国人観光客が少ないように感じる。たまに横丁に外国人が来るが、ホテルや飲食店で言葉が通じない、外国語のメニューがないなど困っている。受入環境・体制の整備が必要である。
- ・首都圏等のエージェントからも、八戸の外国人旅行者の受入環境がどうなっているか問い合わせがよくある。
- ・八戸らしいおもてなしとは何かを考えてはどうか。例えば、必ずイカ刺しでもてなすようにするなど、もう少し工夫が必要である。
- ・北海道新幹線開業後は、函館と戦略的に連携して、青森や弘前を通らず八戸に直接連れてくることも考えていくべきではないか。

## 3. 中心市街地活性化プロジェクト

### 【プロジェクト全体や名称について】

- ・特に意見なし。

### 【現状と課題について】

- ・特に意見なし。

### 【プロジェクト指標について】

- ・特に意見なし。

### 【展開する施策について】

#### ■施策1：都市機能の集積

- ・屋内スケート場の駐車場は十分な台数を確保できるのか。
- ・屋内スケート場の駐車場は600台を予定している。台数をあえて少なく設定することで、渋滞や駐車場不足を避け、中心街に3000台以上ある駐車場から徒歩で来てもらうほか、公共交通機関を利用してもらうことで、中心街における回遊性の向上につなげたい。

#### ■施策2：回遊性の向上

- ・中心街と屋内スケート場の間を歩いてもらうことで回遊性の向上を図りたいということだが、その場合、案内板なども含めて整備していく必要がある。
- ・沿道の店舗やイベント企画などにより、楽しんで歩ける仕掛けが必要となる。

## その他意見

- ・特に意見なし。

## 【第2回結果概要】

- ・「アートのみちづくりの推進」では、アートを活用した地域活性化に加え、市民のアート活動を支援する取組みも必要。
- ・「地域スポーツの活性化」では、中高年の市民がもう一度スポーツに親しんでもらうための事業が必要。
- ・「氷都八戸の再生」では、施設の整備に加え、大学と連携したスポーツ医学や科学スポーツを実践する人材・指導者の育成が必要。「氷都」を施策名として前面に出すことはよい。
- ・「八戸ツーリズムプロジェクト」の現状と課題には、「みちのく潮風トレイル」の記載を検討されたい。
- ・「観光ブランドの強化」では、ヘルスツーリズムなど八戸としての特徴ある事業を検討されたい。
- ・「おもてなしの充実」では、ハード施策に加えて、受入体制等のソフト施策やインバウンド等の事業を検討されたい。また、八戸らしい「おもてなし」の工夫や、函館との戦略的な連携について検討されたい。
- ・「回遊性の向上」では、中心街から屋内スケート場へ迷わず・楽しく歩けるために、案内板整備等を検討されたい。